

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300104		
法人名	株式会社あいわ		
事業所名	グループホームあいわ		
所在地	佐賀県小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	令和3年4月19日	評価結果市町村受理日	令和3年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年6月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>①コロナ対策の強化</li> <li>②認知症勉強会資料と個々の理解と対応</li> <li>③病院連携と対応</li> <li>④栄養状態の評価</li> <li>⑤旬の素材もとり入れ食の満足、栄養、免疫力を考慮した食提供</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな小城市六角川の側に建つ「グループホームあいわ」は、地元から利用されている方が多く、家族、地域と連携を取りながら運営されているホームである。ホームでは、こまめな感染対策を行いながら、入居者一人ひとりの思いに寄り添い、健康状態に細やかに目を配った支援が行われている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で滞りがちな地域との交流を図る為、近くの石像を自主的に清掃したり、玄関等に野菜を植えて、地域の人から気軽に声をかけてもらうきっかけ作りをするなど、様々な工夫と努力を続けている。ホームが地域の一員としてすっかり定着しており、ふわっと温かみを感じる雰囲気のあるホームである。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交わりの中でゆっくり穏やかにお互いを尊重しあう、を理念として支援している。	理念は、玄関とリビングに掲示されている。理念の振り返りは、勉強会等でスタッフがお互いに気づきを話し、相互に理解できるようにしている。管理者、スタッフは、日々の生活の中で理念を実践する努力を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より不道明王様の清掃と草とりを行い、地域との交流を図っている。	コロナ禍の影響で滞りがちになった地域との繋がりを維持していくために、様々な工夫や努力をおこない、ホームと地域が一つの家のように日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等、地域の方と「あいさつ」を交わし交流に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で苑の理念と実施の説明を行い理解を得る様になっている。	会議は定期的に行われており、感染症対策の為、書面による会議となっている。関係機関等には、会議前に電話で意見を聞き会議に反映させている。また、関係者には会議後の報告を行い、記録を整備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナで感染予防の為、密の連絡は取れないが、必要時は連絡を取るようになっている。 必要時、民生委員さんとの連絡を取る様にしている。	感染症対策の為、オンライン環境等を活用して連携を深めている。コロナワクチンの接種については、特に密に連携を行い、日ごろから協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 昼間は玄関も開放し、夜間は施錠している。	3ヶ月ごとに勉強会を開催して、身体拘束に対する振り返りを行い理解を深めている。「虐待の芽チェックリスト」を活用し、個々人が確認をすることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけにも気をつけて接している。 愛情のある態度、接遇の徹底。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、制度について学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間にて説明を行うようにしている。疑問点についてはいつでも気軽に尋ねて頂けるように言葉かけしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは毎日お手伝いさせて頂く中で要望などを聞くようにしている。ご家族様には、面会を控えているが、電話での希望、要望を頂くようにしている。	入居者からは、日々の暮らしの中で意向を聞き取っている。家族については、コロナ禍の影響で面会を制限しており、電話や便りを送付し、意向を聞くようにしている。それらの意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の他、その都度意見を出して貰い、検討、改善するようにしている。	スタッフ会議等で意見を聞く機会を設けている。日頃からなんでも言いやすい雰囲気を作り、個人的に意見を言いたい時は、個別に話を聞く機会を設けている。出された意見は、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の働きを見、貢献を汲むようにしている。また職員の声を聞き、給与や働く環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議での問題提起や、職員間で伝達情報を周知し、ケアの向上に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため、状況を見て参加、交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報の収集、家族にも協力頂き、入居計画作成と説明実施。 意見交換時、傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報の収集、家族にも協力頂き、入居計画作成と説明実施。 意見交換時、傾聴に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	紹介先、ご家族、ケアマネより情報生活上、精神上ニード把握し、支援計画立案、伝達している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じた関係の確立と対応で家族との連携を取り対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の苑便り、電話での対応時に状態報告を行い、家族、入居者の思いを汲み取るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ感染予防の為、面会制限しているが、電話を用いたりして支援している。	ドライブで本人の馴染みの場所を訪ねたり、友人の訪問時は、居室で面会をしてもらっている。コロナ禍の影響で外出や面会を制限しているが、玄関のガラス越しに面会し、電話で話す等工夫をして関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の程度や個性を尊重してリビング配置の調整をし、良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望に応じて対応するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活上、精神上、ニード把握に努め対応している。 伝達ノートを利用している。	日々の暮らしの中で、入居者の何気ない言葉や態度を書き留める「伝達ノート」を活用し、職員全員が共有することで意向の把握に努めている。困難な場合は、家族等からの情報を元に、入居者が選択できる環境を作る等工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供者やご家族より頂いた情報により対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じた対応。 ご本人にも確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ、ご家族、ご本人の状況により立案伝達し、問題が生じた時、計画、立案、評価している。	本人、家族の意向を聞き、本人の状態を細かく観察することで課題を洗い出し、現状に即した計画を作成している。しかし、記録の整備については不十分である。	今までの介護計画を見直すことで、入居者一人ひとりの支援の流れを確認することができる。支援の流れに沿った介護計画や記録の整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPでの記録伝達。連絡ノートを利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活上、精神上、ニード把握し、ご家族、入居者を含めた対応をしている。 食材も嗜好品を取り入れる等。誕生日イベントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、区長様、地域の皆様の協力を得て安心な生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人の希望により担当医を決め、連携を図っている。	本人、家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めている。かかりつけ医とは、定期的な往診を通して、密に連携を取っている。また、入居者一人ひとりの緊急対応時のマニュアルを作成し、適切な支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題が生じた時、連絡をして指示をうけ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ドクターとの連携、スタッフ、ケアマネ、日頃より良好な関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時対応、リスクについて説明と意向を聞いている。用紙を各居室に表示している。	看取りは行っていない。入居時に本人の状態に応じて、家族に相談することを説明している。重度化した場合は、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、家族に選択してもらうようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常の発見と対応のフローチャート作成。状況に応じた活用。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の消防団の方と、通報、避難誘導の訓練実施。 居室のドア、玄関先等、避難確認の目印、移動手段を掲示しスタッフ各自、実際に行き確認する。	消防団等の協力を得て、年2回、夜間想定を含めて火災避難訓練を実施している。近隣には実施の前後に回覧で報告を行っている。各居室前には、避難を確実にするため、名前札や避難済みの札を用意するなど工夫をしている。水害についても対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇改善に努め、気がついた事は互いに声かけを行う。 尊重した対応が出来る様にしている。	入居者の誇りやプライバシーを守りながら、トイレ等について対応している。職員は、接遇について学び、入居者と対応した時の言葉使い等について、お互いに注意し合える関係を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リビングなどの会話の中で情報を収集、傾聴し、ニーズの把握に努めている。情報はスタッフ間で共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、1人1人のペースで尊重した生活が出来る様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にてカット調髪依頼し、各好みに応じて対応している。 クリスマス会にメイクもして写真撮影。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのメニューも取り入れて調理している。スタッフも共に摂取していたがコロナもあり位置を配慮して楽しい食卓作りに努めている。	一人ひとりの希望を聞きながら、その日のメニューを決め、健康状態に合わせて提供している。入居者には、盆拭きや野菜の収穫等出来ることを行ってもらい、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養評価を行い、味付け、見た目も工夫している。 脱水防止のため、電解質飲料補給。状態に応じた水分量。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後マウスケアの実施、口腔内のチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、介助声かけを行い、昼間はトイレでの排尿支援をしている。	昼間は、職員が付き添ってトイレを利用してもらっている。排泄のチェック表から一人ひとりのパターンを確認し、声かけを行いながら支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品の摂取、工夫、青汁併用。 水分の補給、朝夕に体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴計画表を用いている。本人の拒否時、体調に応じて調整している。入浴出来ない日は陰洗を実施。	一人ずつ週3回午前中の中の入浴を基本としている。本人の状態を見ながら、時間や曜日を変更したり、清拭に変えたりして対応している。季節を感じる「柚子湯」「菖蒲湯」等することで、楽しみの入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイキング、保温の工夫、個々の状況に応じて支援している。 入眠は声かけして19時から21時間に行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時、伝達している。 症状悪化時、スタッフやドクターに報告し連携体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の特技を活かし、苑での生活の中お手伝いや見守りをしている。 個々の嗜好品は家族の協力も得ている。 フラダンスレッスンして家族会議時に発表。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、花見等。 天気の良い日は不動明王様付近や近所まで散歩している。	コロナ禍の影響で、ドライブや行事への参加が難しくなっているが、近くまで散歩に出かけたり、外出が難しい入居者には日光浴を行うなど工夫し、外出の機会を保つように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	扱っていない。 (物盗られ妄想が出現したり、問題となるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染防止の為面会困難となり、電話の会話やご家族様のお便り等で家族との関わりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ感染予防の為、次亜塩素入りのもので毎日掃除、手すり拭き、各部屋換気実施している。 季節の生花を飾っている。	共有の空間は、明るく清潔に保たれ、静かで落ち着いた雰囲気である。感染症対策として、空気清浄機を設置し、加湿器と合わせて使っている。浴室やトイレの温度は一定に保つようされており、心地よい空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、席の配置に配慮し、テレビの視聴、会話が弾むようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ADLや認知状況に応じた部屋の配置に注意している。	一人ひとりの希望や状況に合わせて、馴染みの物の持ち込みやベットの配置などが行われている。各部屋には洗面台が設置され、温度、湿度計を利用しながら、本人が居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残された機能維持、回復が出来る様に個々に応じた対応をしている。		